

電気通信大学 平成19年度シラバス

授業科目名	選択露語第二		
英文授業科目名	Elementary Russian (Elective) II		
開講年度	2007年度	開講年次	1年次
開講学期	後学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化応用科目 I I		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	三浦 清美		
居室	東1 - 508		

公開E-Mail	授業関連Webページ
miura@bunka.uec.ac.jp	

<p>【主題および達成目標】</p> <p>ロシア語初級文法の発展</p> <p>(a)隣国の言語であるロシア語を学ぶ。必修では、最小限の文法事項を学ぶが、選択ではその肉付けをおこなう。補足的な文法事項の解説と実践的な表現を学ぶ。</p> <p>(b) 外国語を声に出すことをおそれなくなるのが目標です。</p>
--

<p>【前もって履修しておくべき科目】</p> <p>露語第一</p>

<p>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</p> <p>選択露語第一</p>
--

【教科書等】

教科書：狩野亨著 新ロシア語教程（ノウカ）

辞書：米重文樹『パスポート初級露和辞典』（白水社）

【授業内容とその進め方】

必修の授業において習得したロシア語初級文法の基本項目を補強することを目的とする。初級文法では、比較的やさしい教科書（『はじめてのロシア語』）を用いているが、ここで扱われている初級文法の項目は限られている。そこで、著『速習ロシア語』によって、必修の授業で習得した内容の肉づけをおこないたいと考えている。また、実際の場で使われるロシア語に触れることも必要である。『新ロシア語教程（ノウカ）』という教科書を順次進めていくことによって、具体的なテキストをより多く読みたいと考えている。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

評価方法：試験（50％）、授業中のパフォーマンス（30％）。

評価基準：キリル文字がよどみなく読めること。授業であたった場合、時間がかかってもよいので、かならず声に出して答えることが、最大の評価ポイントです。

電気通信大学 平成19年度シラバス

--

【オフィスアワー：授業相談】

事前にメールなどでアポイントメントを取り、来室すること。

基本的に、火曜日 14:30 - 16:30 は在室予定。

【学生へのメッセージ】

声を出すこと。

【その他】

--